

新潟市秋葉区社会福祉協議会

# 秋葉区社協だより

## Vol.47

2024.7.14 発行



支えあい、ともに笑顔でくらすまち



新金沢町自治会



東町町内会



中新田自治会

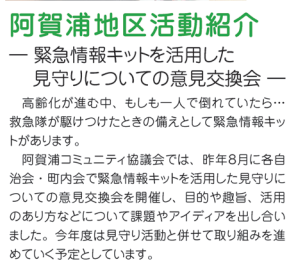


大安寺自治会



東金沢自治会

各自治会・町内会の意見交換会の様子



### 阿賀浦地区活動紹介

#### — 緊急情報キットを活用した見守りについての意見交換会 —

高齢化が進む中、もしも一人で倒れていたら…救急隊が駆けつけたときの備えとして緊急情報キットがあります。

阿賀浦コミュニティ協議会では、昨年8月に各自治会・町内会で緊急情報キットを活用した見守りについての意見交換会を開催し、目的や趣旨、活用のあり方などについて課題やアイデアを出し合いました。今年度は見守り活動と併せて取り組みを進めていく予定としています。

(阿賀浦コミュニティ協議会 湯田事務局長)

## 秋葉区社協だよりの郵送申込みを受け付けています

より多くの皆さまに情報をお伝えできるよう希望される方には個別に郵送をしています。お近くの方にぜひご案内ください。

お申し込み先：秋葉区社会福祉協議会  
TEL0250-24-8376  
FAX0250-23-3322



年3回(7月・10月・3月)に発行予定です!

秋葉区社協だよりは、新聞折り込みでお届けするとともに、区役所、コミュニティセンターなどに設置していただいております。

目の不自由な方を対象に、点字版や音声版(デージー・CD版)も発行しています。

## 今回の特集

近年、全国各地で災害が多発しており、今年1月1日には能登半島地震が発生しました。今年は新潟地震から60年、中越地震から20年という節目の年です。

大規模災害が発生した場合、被害をなくすことはできませんが、日頃の防災の取り組みによって軽減することはできます。

今回は、地域における防災の取り組みをご紹介します。

中も読んでね

# 備えよう!「いざという時のために」“地域の防災力”

近年、全国各地で災害が多発しています。もしもの備えは十分ですか?いろいろな状況を考えて、事前に話し合い、地域内でルールやきまりをつくっておくことが大切です。各地域では災害による被害を最小限にするために防災訓練を実施し、いざという時のために事前に準備を行っています。災害が発生した場合は「自助」(自分の命は自分を守る)、「共助」(皆で助け合う)がとても大切です。どんなときでも地域住民同士の「共助」ができる地域づくりを目指し、地域の“防災力”を高めていきましょう。



## 善道町1丁目自治会

善道町1丁目自治会では、自主防災組織を中心に防災訓練を行っています。コロナ禍の影響もあり、数年ぶりの実施となりました。訓練は自治会役員や隣組班長を対象に、地図を活用して行う図上訓練や、AEDによる救命措置や非常食体験などを行いました。

図上訓練では、緊急避難時の情報共有と連絡体制を念頭に、災害の種類によって避難場所が変わることや、地域の中での助け合いができるか、また避難経路をどうするかの確認を行いました。

訓練を通して、「災害を知り、自分の地域を知り、住んでいる人を知ること」につながっています。除雪等の助け合いや自治会行事など日頃の活動も含めて、人と人がつながる、支え合える地域を目指しています。



地図にシールやペンで印をつけ、災害時の避難状況を確認します。



「黄色いハンカチ作戦」は他地区へも広がっています。

## 草水町町内会

草水町町内会は、「災害に強い地域」を目指して、地域住民を巻き込みながら、様々な体験や訓練を行っています。また、町内には女性を中心とした「草水町ちやの会」があり、町内の福祉増進と会員同士の親睦を大切に活動しています。防災もその一つで、町内会の防災訓練と連動して、災害が起こった際には、女性が日常生活を活かして力になれることがあられるのではないかと、女性防災士を講師に招き、研修会を開催いたしました。当日は「女性のチカラでもっと広がる 家庭・地域防災力」というテーマで、避難所における配産や防犯、助け合い、そして防災アイデア品や子ども防災教育など、多くを学びました。女性の視点や住民同士のつながりの大切さを知ること、さらに防災力を高めることにつながりました。



新潟県防災士の会 女性部会 副部会長 西山ゆき枝

防災用品を日常で活用していく「フェーズフリー防災」や、緊急時はお互いが助け合える関係を作る「互助(ごんじんじゅ)」などを学びました。

## 古津自治会

古津自治会では、平成18年に「古津防炎会」が立ち上がってからも、組織構成員の高齢化や社会環境の変化等あり、見直しを行ってきました。

防炎会の組織としては、役員と補助員の二部構成になっており、役員は若い年代で構成され、メンバーには女性も入っています。また、役員は仕事をしている方も多いため、補助員を70代の方が出揃うことで、中での対応も可能となっています。

そして避難前の一時集合場所として、自治会内に集合場所を7ヵ所設置しました。各集合場所には防災会の役員が待機し、各組長からの安否確認の報告を受けます。そこで迅速かつ正確に安否確認を行う手段として取り組んでいるのが、「黄色いハンカチ作戦」です。この作戦は、自治会内の全世帯が家族の安否を確認して、「我が家は大丈夫だから他ののを助けてあげてほしい」という目印として、道路から見える場所に黄色いハンカチを掲げるも

のです。また、一人暮らし高齢者や要支援者には防災会を担当を決め、訓練時だけではなく、日頃から対象者への声かけを行っています。

防災は、日頃からの意識付けがとても重要で、組織をつくること、そして毎年実施する防災訓練の中で全世帯を対象に安否確認を行うことで、自治会内での防災意識が高まっています。

体制が整った今、今後はあらゆるケースを考えた実践を行っています。



昨年は、地域内にある一時避難所で訓練を行いました。



## 秋葉区災害ボランティアセンター研修

大規模災害が発生した際、秋葉区社会福祉協議会では災害ボランティアセンターを設置します。災害ボランティアセンターとは、被災地のニーズ把握やボランティアの募集、そのニーズとボランティアのマッチング等、被災地のニーズに合った困りごとの相談や支援活動を役割としています。

防災は日頃から取り組みを進め、考えていかなければ、災害時は地域との連携は欠かさないものになります。令和5年度は金津コミュニティ振興協議会から協力をいただき、里山ビジターセンターで研修を行いました。当日は金津地区や秋葉区社会福祉協議会役員など、様々な立場からの参加があり、お互いの役割を確認することができました。

研修では、災害ボランティアセンターや地域などの班を部屋ごとに分けて設置し、それぞれの部屋を行き来しながら連絡・報告を行い、机上訓練に取り組みました。実際はボランティアセンターと地域の距離が離れているということを想定し、できるだけ防災した状況に近い形で訓練を実施しました。青年会議所やライオンズクラブなど関係団体には、災害時にどのようなことができるか、役割を確認し、地域や秋葉区社会福祉協議会を含め、災害時の連携の在り方について話し合いました。今後地域の方々と関係団体を交えて平時から訓練を行うことで、災害時対応や災害ボランティアセンターの役割について確認し、理解を深めていきます。

令和6年1月1日に能登半島地震が発生し、新潟県では西区災害ボランティアセンターが立ち上がりました。土砂被害や家屋の破損等が発生していた中、多くのボランティアや地域住民の皆さま、関係団体より協力をいただき、復旧活動を行うことができました。

なお、西区災害ボランティアセンターは令和6年3月31日をもって閉所いたしました。引き続き災害に関するボランティア相談は、各区のボランティア・市民活動センターにて受け付けています。

秋葉区社会福祉協議会では、地域での防災の取り組みや地域活動でご利用できる助成金の相談窓口を設けております。お気軽にお問い合わせください。

災害ボランティアセンター運営班、地域班等に分かれて訓練を行いました。



グループの検討を報告し、役割を共有しました。





## 会員会費納入にご協力をお願いします!



秋葉区社会福祉協議会では、地域の皆さまと共に様々な地域福祉活動に取り組み、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。地域の皆さまからご協力いただいた会員会費をはじめ、赤い羽根共同募金配分金、寄付金、新潟市等からの補助金・受託金を財源に事業を展開しています。

趣旨にご賛同いただき、ご協力をさせていただきます。

～会員加入と会費ご協力のお願い～

一般会員	賛助会員	
一世帯 600円	企業(一口) 5,000円	団体(一口) 2,000円

令和5年度

会員会費のご協力  
ありがとうございました!!

[令和5年度総額: 12,414,985円]

一般会費 12,138,485円

賛助会費 276,500円



## 地域福祉懇談会を行いました

～今年度の取り組みに向けて～

「人がつながり ともに支えあう やさしいまち」を目指し、秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画(地区別計画)が進められており、地域福祉活動計画は、地域住民が主体となって進める福祉の取り組みをまとめたものです。その地域福祉計画・地域福祉活動計画を推進するため、地域福祉懇談会を各地区で今年2回開催しています。地域福祉懇談会では、4月～6月に今年度の取り組みについての打ち合わせ、12月～1月にふりかえりおよび次年度の取り組みの確認を地域コミュニティ協議会をはじめ、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、関係団体等の地域の皆様と行っています。先日、今年度1回目の懇談会を開催しました。今回より地域の皆様に加え、各地区の福祉施設等の方からもご出席いただき、今年度の福祉活動について、何に取り組みか、どのように取り組むか課題や困りごとをきめて話し合いました。秋葉区社会福祉協議会も地域の皆様とともに地域づくりを進めていきます。

各地区の懇談会の詳しい内容については、秋葉区社会福祉協議会のホームページに記載しますので、ぜひご覧ください。過去の懇談会の様子もご覧いただけます。



新潟中央地区



新潟西部地区



刈川地区



満日地区



新潟東部地区



阿賀浦地区



新関地区



小合地区



金津地区



小須戸地区



山の手地区

秋葉区社会福祉協議会では、地域コミュニティにおける地域福祉活動に各種助成を行っています。ぜひご利用ください。

※詳細や必要な書類等については秋葉区社会福祉協議会までお問い合わせください。秋葉区社会福祉協議会 TEL0250-24-8376

## 支え合いのしくみづくり

「支え合いのしくみづくりについて知りたい」と思った時など、いつでもお声がけください。皆様のところへ説明に伺います。

秋葉区では住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けていくために、生活支援・介護予防などの充実を図るため、身近な地域での支え合いの取り組みを関係機関と連携を行いながら、地域の皆様と推進しています。



## 秋葉区第1層の取り組みについて紹介します!

第1層は秋葉区全域の支え合いのしくみづくりの取り組みを進めています。

今、秋葉区は、少子化による人口減少や高齢化などにより、様々な課題が出てきています。高齢化率は増加し、秋葉区では令和6年3月現在で32%の超高齢社会となっています。更に、令和6年度新潟市介護保険料の増加や介護人材の不足など、公的サービスの利用も難しくなることが予測されます。また、2025年には、高齢者の5人1人が認知症になると言われており、認知症についての課題は、秋葉区で取り組むべき大きなテーマの1つとなります。認知症は誰もがかかる可能性のある身近な病気であり、認知症は自身と関係のないものではなく、自分事として考えていかなければいけない状況となっています。

「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」ために、地域での見守りや助け合いが重要となる地域づくりが必要となります。そのために、地域で何ができるのかを—

人ひとりが考えていかなければなりません。支え合いのしくみづくりでは、そのような地域づくりを目指し、地域住民の皆さまと一緒に地域福祉活動を検討し、取り組みを進めています。

認知症に関する取り組みとして、地域では様々な活動が行われています。

学校では、総合的な学習の時間で福祉を学ぶ中で、認知症サポーター養成講座を取り入れることで、認知症への正しい理解を深め、自分に何ができるかを考えています。また、地域住民と関わる機会が多い窓口業務がある企業を中心に、職場で認知症サポーター養成講座を開催することで、地域貢献活動の一歩として取り組みを進めているところもあります。

### 認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を学び、地域で認知症の人やその家族に養ってできる範囲で手助けをする応援者を養成します。認知症サポーター養成講座を受講することで、認知症サポーターになることができます。



認知症や介護予防など、地域でできそうなことを一緒に考えてみませんか。

認知症サポーター養成講座に限らず、地域での取り組みについてなど、ご相談等がありましたら、お気軽に秋葉区社会福祉協議会までご連絡ください。

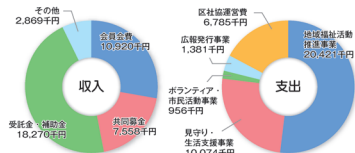
# 秋葉区社会福祉協議会予算及び決算概要

秋葉区社会福祉協議会は、「新潟市社会福祉協議会福祉ビジョン2021」に掲げる「支えあい、ともに笑顔で暮らす『にいがた』及び「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の「人がつながり」ともに支え合う「やさしいまち」を目指し、地域の皆さまと共に地域福祉活動を展開しています。

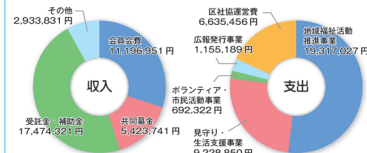
## 令和6年度重点目標

- 1 地区社協等との協働による地域福祉の推進
- 2 身近な地域における見守り・生活支援の推進と総合相談支援体制の整備
- 3 ボランティア・市民活動の推進
- 4 広報・啓発活動の推進
- 5 組織・運営の充実

## 令和6年度予算 39,617,000円



## 令和5年度決算 37,028,844円



新潟市社会福祉協議会及び秋葉区社会福祉協議会の事業計画・予算及び事業報告・決算の詳細は、ホームページに掲載しています。



## ひとり親世帯へ食料・日用品をお届けします

### ～企業のみなさまからの寄付を募集いたします！～

コロナウイルスや物価高騰等の影響を受け、ひとり親世帯への食料支援を行っています。今年度250世帯の配布を予定しております。生活再建の一助として、食料品や生活用品をお届けするため、企業の皆さまよりご理解とご協力をいただき、支え合い・助け合

いの和を広げていきたいです。ご寄付の申込みについては、秋葉区社会福祉協議会のホームページをご覧ください。直接ご連絡した方がよろしいと思います。なお、個人からの寄付につきましては、ご遠慮させていただきます。



申込締め切り：7月24日(水)

- 【内容】
- 自社製品 ・ お米
  - レトルト食品 ・ 野菜
  - ティッシュボックス
  - トイレトレーニングペーパー など

## 開催案内

### ひきこもりに関する講座のご案内

ひきこもりの状態になるのは、様々な社会課題があります。ひきこもりについて正しく理解し、一緒に考えましょう。

- 日程 令和6年10月24日(木)13:30～15:45
- 場所 新津健康センター3階 第1・2会議室
- 定員 40名(事前申し込みは必要ありませんが、定員が達した場合は、会場に入れない場合がありますので、ご了承ください)

#### 【第1部】「ひきこもりの正しい理解と支援」

講師：長岡崇徳大学客員教授 斎藤 まさ子氏

ひきこもりは本人や家族だけの責任ではなく、家族が「支援者がどのように関わっていくか」にヒントになる講座です。

#### 【第2部】懇談会※こちらは、ひきこもりの方を抱えるご家族のみ対象です。

詳細は、秋葉区社会福祉協議会ホームページをご確認ください。

### ボランティア講座

### 障がい児・者の今からできる準備講座

障がいをお持ちの方が親亡き後にも専断を持って暮らしていけるよう、お金に関して事前に行える準備講座を開催します。

また、障がいをお持ちの方とご家族が日頃から地域との交流を持つことの大切さも伝えます。

- 日時 令和6年8月24日(土)10:00～12:00
- 会場 新津地域交流センター
- 参加対象 障がい児・者、ご家族
- 参加費 無料 定員 30名(先着)

### サイエンス☆ラボ

秋葉区内の小中学生親子を対象に新海薬科大学を会場に化学実験とボランティアの楽しさを伝える講座を開催します。親子一緒に夏休みの思い出作りをしましょう。

- 日時 令和6年8月3日(土)10:00～11:30
- 会場 新海薬科大学東奥キャンパス
- 参加対象 小学生4年生以上の親子 ※お申し込み・おはあちゃんとの参加もOK
- 参加費 無料
- 定員 20組(申し込み多数の場合は抽選を行います)

各講座の申し込みは秋葉区社会福祉協議会

秋葉区ボランティア・市民活動センター  
TEL：(0250)-24-8345 FAX：(0250)-23-3322  
mail：vsc-akina@syakyo-niigatacity.or.jp

## 秋葉区社協たよりの郵送申込みを受け付けております。

郵送にお住まいの方で新聞未読講座、秋葉区社協たよりの届かない世帯郵送を希望される方は、秋葉区社会福祉協議会まで申込みください。

## 社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

# 秋葉区社会福祉協議会

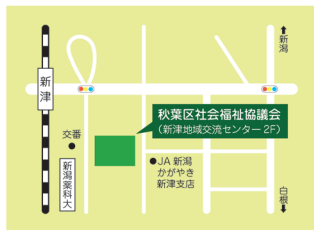
新潟市秋葉区新津本町 1-2-39  
TEL：0250-24-8376 (代表) FAX：0250-23-3322  
TEL：0250-24-8345 (秋葉区ボランティア・市民活動センター)  
URL：http://niigatakihaku-syakyo.jp/

秋葉区社会福祉協議会

検索



ホームページも見てね



### 秋葉区心配ごと相談所

(来所相談・電話相談)

- 相談無料
- 予約不要

- 日 時：毎週月・金曜日  
午前10時～午後3時  
土日祝日の場合は休み
- 場 所：新津地域交流センター2階相談室
- TEL：0250-24-8376

どこに相談すればいい？

誰に相談すればいい？

不安や悩みごとは心配ごと相談所へご相談ください。相談員が親身に相談に応じます。

ひとりで悩まずお気軽にご相談ください

### あたたかいご寄付をありがとうございました

秋葉区内の福祉事業・活動に活用させていただきます。

(令和6年3月1日～令和6年5月31日)

寄付者氏名(敬称略)	寄付金額	寄付先
滝谷町長寿会	71,943円	秋葉区社協
新津建築組合	30,000円	秋葉区社協
越住 雪留車の会 鈴木嘉信	10,000円	秋葉区社協
2021FYG20歳の子供たち 代表 甲田寛子	4,659円	秋葉区社協